

繁藤月報

〒789-0583

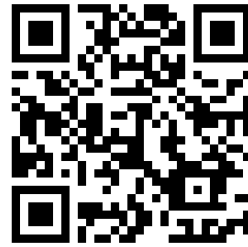
高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

信仰初代は越えられない

ちょうど一年前、この巻頭言で「私淑（ししゆく）」という言葉を用いて、師弟関係についての考えを書いた。その後、皆さんの中で私淑する人は新たに見つかっただろうか。一年前の巻頭言を読んでいない方は、まずこちらをぜひ読んでいただきたい。



今からでも遅くない。
師匠を探そう (2023.5)

さて、今回は師弟関係の話を続きを書きたい。

「出藍之誉（しゅつらんのはまれ）」という言葉がある。一言でいうと、弟子が師匠を超えることを表した言葉だ。由来は、青色の染料は草の藍（あい）からとるが、それはもとの藍草よりもっと青いことからの喩えである。

また相撲の世界では、稽古で胸を借りた先輩力士に本場所の土俵で勝つことを「恩返し」と表現する。武道や芸能において、弟子が師匠を超えることはある意味で理想の伝承とも言えるのかもしれない。

では、お道（天理教）はどうだろうか。お道において師弟という言葉が使われることは少ない。どち

らかという血縁に関係なく、「親」と「子」という関係性が構築されることが多い。ただ、「親」を「超える存在」として捉えることは基本的にしない。

一方で、同じような文脈で「初代は越えられない」という話をときおり耳にする。ここで言う初代とは、教会の初代会長や、その家で最初に信仰し始めた親族・先祖のことを指している。私でいうと、高祖父であるひいひいおじいさんが信仰初代だ。つまり、私は坂本家で信仰5代目ということになる。

ちょうど先日、繁藤の初代会長について話す機会があった。初代会長にまつわる話は様々あるが、そのとき話に出たのが初代会長の固い信仰信念だ。繁藤の教会が設立された明治25年頃、布教費捻出のために起こした事業が大失敗し、多額の借金を背負った。それから十数年、どん底の中を心倒さずに人だすけに専心し、教勢は愛媛、九州へと伸びていったが、いよいよ経済的に行き詰まる。そこで教会役員一同が話し合い、もはや教会解散の外ないという結論に至った。しかしそこで瓦、柱、畳、建具等を各々分配しようとした際、初代会長は「では、皆さんは鳴物、神具等は必要ないだろうから、もし分け分として下さるなら、これを私に下さい」と言った。たった一人になっても



美しい青が染まる藍染め



藍染め原料のタデアイの葉

この信仰を続けていくという固い信念が初代にはあった。その道すがらの苦労は計り知れないものがある。

信仰5代目の私のように、生まれたときから生活の中に信仰があり、強烈な信仰体験がないものにとつて、初代を超えるような信仰信念を掴むことは容易にできることではない。そういつたことから、お道では「初代は超えられない」という表現をすることがままある。

たしかに初代会長の道すがらを辿ったとき、今の私の信仰のままでは、初代会長を超えることはできないかもしれないと感じる。しかしよく考えてみると、そもそも何をもって「超える」というのか。信者数や御供の金額なのかというとしっくりこないし、そもそも時代や環境も大きく違う。単純な個人の能力を比べるのではないだろうし、ましてや信仰心の強弱を数値化して図ることはできない。というか、そもそも張り合う必要があるのだろうか。

そこでヒントとなる言葉を紹介したい。思想家で、武道家でもある内田樹氏は師弟関係について、こう述べている。

― 師を見るな、師の見ているものを見よ ―

「弟子が『師』を見ている限り、その視座(※)は『今の自分』から動かない。今の自分を基準に師の技や芸を解釈し、模倣することに甘えるなら、技芸は代が下がるにつれて劣化し、変形していくでしょう。

弟子は、師その人や、師の技ではなく、『師の視線』『師の欲望』

『師の感動』に照準を合わせなさい。師が実現しようとしていたものを正しく射程にとらえたなら、原点にある大切なものは汚されることなく時代を生き抜くはずです」

内田樹 著『寝ながら学べる構造主義』より

武道や芸能と同様に、天理教のことをお道と呼ぶ。そう、後ろにも前にも続く道なのである。繁藤の初代はじめ、お道の礎をつくられた先人の先生方は、何を感じ、何を求め、そして未来に対してどんな希望を抱いていたのだろうか。

先人達の足跡の上に立つ我々が、そのことを思案するとき、歴史は解像度を増し、さらに色鮮やかになるだろう。そして先人達だけでなく、真柱様が、教祖がどんな視座に立たれているのか。同じ視座に立つことは到底叶わずとも、そこに意識を向けて拝察するとき、さらなる成人の道が拓けてくるはずだ。

いよいよ今月から三年千日も後半戦に入る。教祖百四十年祭、その先に続くこの道を、高い視座を持ちつつ、精一杯目の前のことに誠を尽くしていきたい。

※視座・・・物事を見る姿勢や把握する時の立場

立教百八十七年六月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

【五教百八十七年 五月月次祭 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様には、おふでさきをを通して、
だん／＼とこどものしゆせまちかねる 神のをもわくこればかりなり
(四子六五)

と、一れつ子供の陽気ぐらしを思召し下さる深い親心から、只管に成人をお待ち望み下さいまして、妙なる御守護のまにまに歳重の道も恙無きようお連れ通り下され、お育て下さいます御慈愛の程は、誠に有難く勿体ない極みで御座います。私共は片時も御厚恩を忘れることなく、日々思召に忘えさせて頂けるようたすけ一条に勤めさせて頂いて居りますが、今日の佳き日は、当教会に御許し頂いて居ります月々の御祭日ですので、只今からおつとめのお役を預かるようべく一同心を揃え、陽気に座りづとめ・てをどりを勤めて、五月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前により集まったようべく、信者一同が、陽気ぐらし世界建設を願う真実の状を御覧頂き、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

ことわけて申し上げます。近年、時折雨漏りがして居りました大教会神殿の屋根の谷樋部分を、今月末に補修工事をさせて頂く運びとなりました。神殿落成の昭和二十六年より七十年以上の時が経ちますが、この先も末永くたすけ場所の神殿として使わせて頂けるようお見守りのほどをお願い申し上げます。私共教会長を始め、よふべく一同は、今日の仕切りの時向に深く思いを致し、緩みなく心の成人に励み、素直にひながたの道を辿って、精一杯をいげおたすけに、更には修理肥に真実を尽くし、教祖百四十年祭活動を一層活発に推し進めさせて頂く決心で御座います。何卒至らぬところ、届かぬ点は歳重にもお仕込み下さいまして、この上共に、ふしぎなたすけの理、鮮やかに自由の御守護を賜り、一日も早く一れつ兄弟姉妹互いに扶け合い、睦び楽しむ陽気づくめの世の状にお導き下さいますよう御守護の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会立教百八十七年 五月月次祭 祭典役割》

祭主	指図方	扈者	扈者	賛者	賛者	男		女		地方	笛	チャンポン	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	神殿講話					
						座りづとめ	大教会長	前大教会長	坂本久徳												大教会長夫人	前会長夫人	黒石伸子	佐藤栄治	為田基紀
大教会長	田村辰久	村上英士	藤田一憲	田村聡佐	前田豊	座りづとめ	大教会長	前大教会長	坂本久徳	大教会長夫人	前会長夫人	黒石伸子	佐藤栄治	為田基紀	藤田一憲	村上英士	安部道郎	田村辰久	藤田憲明	為田紀久男	宮田孝道	佐藤順子	村上美栄子	藤田洋美	佐藤成彦
立花真一郎	佐々木 恵	前田 豊	田村省悟	村上由高	空閑慶吾	てをどり前半	田村久徳	伊藤正福	近藤道男	宮田まゆみ	佐藤文代	武市まち子	佐藤成彦	佐藤節幸	前田 豊	空閑慶吾	川田節夫	宇山基紀	田村聡佐	秋月真一郎	立花真一郎	為田賢子	田村睦美	秋月孝子	藤田洋美
						てをどり後半	佐々木 恵	村上由高	黒河明大	黒石美佐	村上 綾	空閑真理代	田村省悟	土居道久	佐藤一三	坂井博文	青木悦雄	近藤太一	渡辺道仁	千枝信平	藤田 誠	田村育与	佐藤明子	空閑 都	

【神殿講話】

(6月) 学生層育成者講習会

勝村宏樹先生

(東濃大教会長・学生担当委員会副委員長)

【修養科生並びにおさづけの理拝戴者講話】

(6月) 佐藤 栄 治

【教会長神殿当番】

(6月) 繁山・関守・高昭

(7月) 桂濱・中土佐・高杉

【詰所教養掛】

(6月) 田村省悟

(7月) 坂口正幸

【詰所事務当番】

(6月) 村上由高

(7月) 白石明光

渡辺朝之

【ひのきしん】

○本部食堂ひのきしん

日之富 6月16日～30日

○婦人会詰所ひのきしん

6月25日～26日

(城下2名・別府1名)

【三代真柱様十年祭】

既に天理時報等でご承知の事と存じますが、来る6月24日、三代真柱様十年祭が執り行われます。道の芯であられた三代真柱様の御遺徳をたたえ、繁藤部属の教会一同といたしましても御供をお届けし、お慰び申し上げたいと存じます。つきましては一名称五千円の御供を、各上級を通して6月20日までにお納め頂きますようお願い申し上げます。

【婦人会・少年会・青年会】

【各会費納入のお願い】

令和6年度の各会費の納入を、左記の通りお願い致します。

記

- ・ 婦人会 一名称 六〇〇〇円
- ・ 少年会 一名称 六〇〇〇円
- ・ 青年会 一名称 六〇〇〇円

納入については、各会責任者もしくは会計担当者にお納め頂き、必ず領収証を受け取って下さい。やむを得ず詰所事務所にお預けになる場合は、詰所にて預かり証しか出せませんのでご留意下さい。

【全教会長おぢばがえり団参】

三年千日2年目の今年、繁藤の理につながるお互い、更に一手一つに結び合い、勇ませ合い、さらに年祭活動に邁進していくために、左記の要項で団参を実施します。道の先達となる教会長がおぢばの秋季大祭に参集し、真柱様の思召に添わせていただき、決意も新たに心定めをする契機とさせていただきます。繁藤部属の62ヶ所の全教会がもれなく集えるよう、互いに声をかけ合い、おぢばに帰らせていただきますよう。

記

日時 立教187年10月26日(土)

対象 全教会長(やむを得ない場合は代理)

内容 本年秋季大祭に参拝。祭典後に西礼拝

場に残り、全員でお願いづとめを勤めます。なお、教会長以外の方も共にひとつとめを勤めさせていただきます。繁藤の旗を目印とします。

【第2回 教養掛会議】

左記により「第2回 教養掛会議」を開催いたします。来年度より修養科生受け入れ体制

の変更を行う上から、内容面、実務面についてのご相談をさせて頂きたいと考えておりますので、現在、教養掛としておつとめ下さっている先生方には、必ずお集まり下さいますようお願いいたします。

記

日時 6月20日午後4時より
場所 大教会会議室

【広報・史料部より】

昨年末より「部内教会略史」の更新として資料提出をお願いしていましたが、まだご提出いただけてない教会には、平成4年に発行した「大教会年譜表と写真集・部内教会略史」をご参照いただき、歴代会長経歴記入用紙と平成4年以降の教会の経緯記入用紙を同封致しますので、早急にご記入の上ご提出下さいますようお願い致します。

【婦人会】

○みちのだいおはなし会（6月）

日時 6月26日 午後1時～2時

場所 南右第二棟陽気ホール

◇長谷幹男（天理高等学校副校長）

「育てることは育つこと」

育つことは育てること」

◇繁藤支部委員長講習会

・日時 6月25日（火）

・開講 午前10時（受付9時30分）

・場所 繁藤詰所 4階大広間

※代理の方でも構いませんので、1委員部1名参加していただきますようお願いいたします。

詳細は各委員部長さんに書面にてお伝えしております。

【少年会】

●「立教187年子どもおちばがえり」

本年の子どもおちばがえりの申込みが7月1日から始まります。昨年と申込み方法が違いますので、ご確認いただいて申込み下さいますようお願い致します。

※不明な点は団長（田村）までお問い合わせ下さい。

又、各隊の帰参報告書（月報同封）を7月20日迄に詰所までご連絡ください。併せて、子どもおちばがえり期間中に詰所で受入れひのきしんをおつとめ下さいます方も募集しています。

【初席】

紋別 坂本直人

紋別 坂本英雄

【をびや】

2 件

【おまもり】

1 件



仕切り月 西田川部属・地之島分教会 5月3日



本山分教会 創立130周年記念祭 5月19日



仕切り月 馬関部属・関守分教会 5月11日



仕切り月 西田川部属・田久生分教会 5月12日

【仕切り月の喜び】

西田川部属 繁金分教会
(令和6年5月5日)

今回は、大教会長をお迎えしての仕切り月であったので、各信者家庭には、前もって声かけをしていた。お陰で普段来ていなかった少年会員も参拝にきて頂き、全員で大教会長様のお話を聞かせて頂いた。大教会長様のお話の中にまず心を定める事が大事であると言う事で、やはりまず月次祭に向って心を揃えて勤めさせて頂こうと定めさせて頂き親神様に喜んで頂き陽気に勤めさせて頂いたと思う。残念ながらおつとめ奉仕者の数は足りなかったが、少年会員の子供達がお道に繋がってくれる様、明日に向かって陽気に進める事を願う一日であった。次回の仕切り月には、一人でも多くのおつとめ奉仕者が参加できる様に今回以上の声かけをしていこうと思う。

